



フィグ・ヤーパン通信

第 16 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.16

発行日 2003 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

リッカウアー夫妻が来日しました

9月20日から1週間の日程で、FIGUスイスの基幹会員、シュテファン・リッカウアー (Stephan A. Rickauer)、シモーネ・リッカウアー (Simone H. Rickauer) ご夫妻が来日しました。お二人はギドー・モースブルッガー氏以来5年ぶり2回目となる講演会を開催後、フィグ・ヤーパン事務所に来所され、打ち合わせを行いました。

リッカウアー夫妻へのインタビュー

FIGUとはどのようなきっかけで出会ったのでしょうか。

シモーネ 当時、私が前の夫と暮らしていた同じアパートに、FIGUスイス基幹会員のモースブルッガー夫妻が暮らしていました。私はエリザベート・モースブルッガー婦人を親しみのもてる方で、かつてどこかで会ったことのある方のように思っていました。ある時、彼女に人生の悩みについて相談した時に、『アラハト・アテルザータ』を渡されて読んだことがFIGUと出会うきっかけとなりました。この本には、自分が考えていたのと似たことが書かれていると思いました。

シュテファン 10歳の時に母が死に、それがきっかけで私は別居中だった父の家に住むようになりました。父のところで日本で放映されたビリーが撮影したUFOのビデオを見ました。さらに、父のとこ

ろにギドー・モースブルッガーが出入りしていました。14歳の時、ギドーから『アラハト・アテルザータ』の本をもらって読みました。初めてセンターを訪問した時の印象は、世界中のどこにもここほど心地よい場所はない、というものでした。それから18歳で基幹会員の申請をして、2年間の試行期間を経て、メンバーになりました。

お二人の出会いについて教えていただけますか。

シュテファン 13歳の時にセンターに出入りし始めるようになってシモーネと知り合いました。19歳の頃、友情が芽生え、私達は互いによく電話するようになり、波長が合うと感じるようになりました。2000年になってお互いに一緒に住んでもいい、この人となら一生・・・という気持ちになったのです。よくこうした関係が続けると、結婚には至らず友情に終わるという話を聞きますが、私たちの場合はむしろそれが長所になっているようです。



お仕事は何をなさっていますか。

シモーネ 薬局で医療技術関係の仕事をしています。特に興味があるのは薬草を使った漢方のような方法、普通の医学より範囲を広げたいいわゆるオルタナティブ医学（代替医療）の「ホメオパシー」に似たようなものです。

シュテファン 帰国してから、チューリヒ大学で神経情報科学の研究を行う予定です。それは、脳の機能について研究し、どのように人工的に再生していくかというものです。

FIGUではどのような任務に携わっていますか。

シモーネ 主な役割は校正です。FIGUの書物は7人のメンバーが校正し、ビリーが目を通した後、ベルナデッテにわたり、印刷の段階になるとピエロに渡し、そこで問題がなければ印刷されます。それ以外に第一と第三の週末はセンター内の仕事をしています。

シュテファン 私の役割は技術的なことです。インターネット、コンピュータ関係の内部での仕事が90%を占めています。その他にサーバー管理の仕事です。インターネットのセキュリティに関してはビリーを通じてクウェツァルにアドバイスを求めることもあります。その他に夜警や、月に一度（第一土曜日8時～17時）メンバー全員で芝刈りや除雪作業など、最低8時間の勤労奉仕をしています。

お二人にとって、ビリー・マイヤーさんはどのような方でしょうか。

シュテファン 彼は例えて言えばカメレオンのように色々な面を持っている人です。形容するのは難しいですが、私にとっては父のような存在であり、親のように教えてくれるところがあるかと思えば、威厳を持ったようなところもあります。自分の父とは違うタイプなので、ある意味では理想化した父親像をビリーに見出しているような気がします。

シモーネ 私にとってはいい友人です。良い時も悪い時もいつもそばにいて、助けを必要とすれば絶対に信頼できる、必ずそこにいて助けてくれるという

確信が持てる、例えば職業的なことでも、個人的なことでも、FIGUのことでも行き詰った時には必ずビリーが助けてくれるという確信が持てる、いい友人です。とても貴重な存在です。

FIGUの活動はこれからどのように変わっていくのでしょうか。

シュテファン まずは『FIGU特別公報』の発行が活発になるのではないかと思います。というのはビリーがタイプライターからコンピュータに乗り換えて、それも上手に操作できるようになり、フロレーナがビリーの健康を心配するほど集中して取り組んでいるからです。FIGUは技術的なものを多く取り入れてますます活発になっていくと思います。『アラハト・アテルザータ』、『会見記』も校正しているところで、これから新しく発行します。他に『シンボル（象徴）』や地球の名前を加えた『名前の本』も新たに発行する予定です。ビリーは同時に3、4冊執筆していますので、新しい著作も出版される予定です。

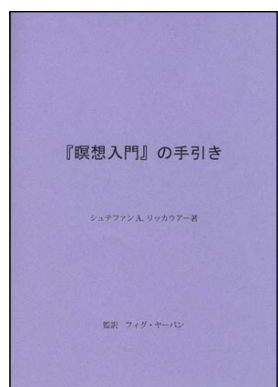
日本の読者の皆さんに一言お願いします。

シュテファン 日本の皆さんは仏教に親しんできたので、「霊の教え」を学ぶにあたり、仏教に引き止められているように思われることがあるのですが、あまり影響されないように自分で考え探求をやめず、仏教と混同しないように気をつけていただきたいと思います。

シモーネ 自分自身で考え探求することが大事です。与えられたものをそのまま受け入れることはしないことです。自分が得た知識を実行に移し、それを知りたい、学びたいと思う人たちに伝えていくべきです。強制したり、圧力を加えるのではなく、向こうから知りたい、学びたいという意志を表した人にFIGUのことを伝えていただきたいと思います。

ありがとうございました。

新刊 『瞑想入門』の手引き



ドイツ語原文対訳
A5判
45ページ

本書は、ビリー著『瞑想入門』（フィグ・ヤーパンにて翻訳中）を紹介するために、FIGUスイス基幹会員のシュテファン・リッカウアー氏が書き下ろした作品です。瞑想とは何か、瞑想にはどのような誤解があるのかといった瞑想に関して知っておくべき基本的な事柄がわかり易く記された手引書です。

A5判ドイツ語原文対訳でご覧いただける小冊子として発行しています。

なぜ瞑想をするか

瞑想は人間の身体的、精神的、霊的要素を発達させる。それゆえ、自らの進化と人生における進歩、また人生の意義を積極的に求める人たちは瞑想を学ぶべきである。瞑想は余暇活動の一種、単なる暇つぶし、あるいは特別な能力を身につけるといったものではない。それはむしろ人間本来の人生の課題の一部、つまり真の自己認識に達するということである。簡単に言うと、人間は瞑想を修得することによってのみ自分の考え方、感じ方、内面的な素質や未知の能力なども含めて自分自身を本当に完全に知ることができるということである。瞑想の助けを借りることによってのみ、人間は自分の本質における微細粒子域に進入し、知識と英知をもって真に認識できるようになる。……

Q&A 質問と回答

□読者の質問

第三次世界大戦は勃発してしまうのでしょうか。

□ビリーの回答

私は公報で、ある預言によると 2003 年、2006 年、2010 年および 2011 年に第三次世界大戦が起こり得ると言ったが、それは予告 (Voraussage) ではなく、実際のところ預言 (Prophetie) にすぎない。これまでに数え切れないほどの問い合わせがあり、そのたびに明確に説明してきたが、それは実際**予告ではなく預言**であり、上記の年代はこの預言に由来するのである。が、預言は常に変わり得る。なぜならば預言は、絶対確実に実現される予告とは異なり、的中せねばならないということに依拠していないからである。

預言は、極めて特定の原因から、やはり極めて特定の結果が生じるという、論理的な、つまり筋道の通った考察に依拠している。つまり、原因から行動

が発生し、その行動が実行されて結果が生じるのである。この場合、すべての原因からは、肯定的なものも、否定的なものも生じるというように定式化できる。

何らかの預言がなされる時、それはある否定的な原因に対して直ちに別様に、すなわち肯定的に行動しなければ、その結果として生じるであろうものが提示されることを意味している。というのも、人間には、自分で作り出す原因から生じる否定的なものが示されるのが普通だからである。そうするのは、人間が今まさになそうとしている害悪について考えを巡らすためである。それゆえ、預言によって人間には自分の行為の帰結もしくは結果が示されるが、それは人間が別様に、とりわけ理性的に行動し始めて、悪い帰結もしくは否定的な結果を回避し、自分の思考と感情、そして行動から良いものや肯定的なものを生み出すようにするためである。それゆえ、預言が実現するかしないかは、常に人間自身にかかっている。これは第三次世界大戦についても当てはまる。なぜならば預言は、第三次世界大戦が実際に

避けられないと言うのではなく、もし人間がその好戦的、政治的および宗教的な狂気の沙汰を変え、放棄し、そこから肯定的なものを生み出すのでなければ、そのような戦争が起こり得るであろうと言うものだからである。つまり、預言が実現するかしないかは、ひとえに人間自身にかかっている。そしてこのことは第三次世界大戦にも該当し、人間がついに理性的になって、権力者たちに道理を悟らせるならば、戦争が実際に起こるとは限らないのである。実際、これらの権力者の頭は狂っており、愚かで、権力欲が強く、利潤の追求しか考えず、独善的で、復讐欲に駆られ、強欲で、憎悪に満ち、痴呆化している。彼らは戦争を開始して国民を煽り、愚かで頭の悪い連中は戦争に歓呼の声を上げ、自ら進んで武器を取り、無実の人間を殺すのである。

このような預言とは異なり、予告の方は何らかの形の透視能力、幻視または未来透視によって予見される、逃れようのない出来事であり、それらは阻止も変更も効かずに的中し、回避することはできない。しかし第三次世界大戦については、近代でも、古代からも予告はなされておらず、これに関しては預言が存在するのみである。が、周知の通り人間が理性的に対処して、差し迫った危険が現実とならなければ、これらの預言は実現されない。したがって、第三次世界大戦に関しては、人間が預言を現実のものとするかしないかは、ひとえに人間の理性と振る舞いと行動にかかっているのである。

事実、**第三次世界大戦は予告されていない**。なぜならば、預言が言っているのはもっぱら、人間が引き続き軍事、政治および宗教を基盤として戦争への道をひた走り、理性に支配させることなく、宗教や国家の権力者を野放しにして、愚かで頭の悪い国民がこれらの無責任で犯罪的な分子によって扇動されるならば、2003年、2006年、2010年および2011年、そしてそれ以降の時点に第三次世界大戦の可能性があるとということだからである。

ある古い予告は、第3千年紀に女性が支配権を握り、平和、自由、愛、そして調和を創り出し、したがって男たちは、数千年にわたる専制支配を放棄せざるを得なくなると言う。実に喜ばしい予告ではあるが、それは最初の内は欠点ももたらす。なぜならば、戦争を引き起こし、国民をテロによって恐怖に

陥れ、国民の中から自分たちに隷従する卑屈な愚か者を求める「殿方」のように、独善的で愚かな多くの女性が真っ先に権力の座に着くからである。残念ながら最初の内は「新千年紀の母」として主導権を握るのは、世界中でごく少数の女性にすぎない。というのは、本来の真の母は後になって徐々に現れ、世界を平和、自由、愛、秩序、そして調和に導くからである。残念ながら、この点でも当初は困難であり、最初に「偽の女ども」が権力の座から退いた後、「新千年紀の真の母」が人類の運命を握り、新しい世界を創り出すであろう。その世界において、悲惨、困窮、戦争、権力欲、そして不正は、数千年来、支配欲と権力欲に駆られた独善的な男の権力が世界と地球人にもたらしてきた、それらの恐怖を失うであろう。（「第三次世界大戦」について 明確な表明）

出展：FIGUスイスホームページ

ビリー・マイヤーへのインタビュー

— ミッションに関すること —

プレアデス/プレヤール人の故郷の国から地球までの宇宙飛行はどのくらい時間がかかりますか。また約500光年という天文学的な距離をいったいどうやって移動するのですか。

コンタクトの初期は、飛行時間は、地球から見えるプレアデス星の向こう側の次元における時空がずれた構造から約7時間でした。その後、技術がさらに進歩したので、飛行時間は7分に短縮されました。最新の旅行形態は、トランスミッターを利用することによって全宇宙におけるどんな距離も絶対的に無時間となり、実際全く時間のロスなしに移動できるようになっています。

最初のころはまだビーム駆動装置やタキオン駆動装置や反物質駆動装置が利用されていましたが、最後に挙げた2つの駆動装置は光の数倍の速度に達し、それによって膨大な距離も短時間で克服することができました。これらの技術は今後も維持されますが、それと並んでトランスミッターを用いた最新の旅行形態は、最終目的地の座標を事実上1メートル

ルの精度で設定できるため、時間の損失なしに目標地に到達できます。

地球外知的生命はどうして公共の場、たとえばジュネーブの国連本部やワシントンのホワイトハウスの前に降りないのですか。

その理由はいろいろあります。が、最も重要なものはある指令によるものです。その指令とは、プレアデス／プレヤール人は、何らかの惑星の何らかの人類のいかなる事柄にも絶対に介入してはならず、姿を現してはならないというものです。それは当の人類が宇宙飛行を十分に習得しておらず、また確固とした平和への意志と、人間性およびあらゆる生命との宇宙的な絆きずなという規範を倫理的、人道的に獲得していない場合です。したがってプレアデス／プレヤール星の地球外知的生命は公然と自由に姿を見せたり、動いたりしてはならないのです。

なぜプレアデス／プレヤール人とコンタクトを取るの、ほかならぬ「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤーであって、それ以外の人ではないのですか。

その理由は数千年の過去にさかのぼります。そのころ私の霊体は、自らの決心で特定のミッションを義務として負う人間の中に存在していました。このミッションは生まれ変わることのできる総意識にとって、したがってまた霊体にとって、幾多の転生と数千年の時を経て今日に至るまで長く続く使命となったのです。この場合、高次の水準に由来する総意識は、地球上に存在する低次の意識体に適応しましたが、高次の意識体にも順応できる能力を持ち続けました。だから私が今日、そして今後もプレアデス／プレヤール人とコンタクトを取ることができるのは、まさに私の総意識体が意識的および霊的に高度に発達した地球外知的生命の総意識体に順応できるからなのです。これができるのはこの地球では私だけであり、地球上の他のいかなる人間もこの能力を持っていません。だから他の人間がプレアデス／

レヤール人と何らかのコンタクトを持つことは絶対に不可能なのです。

もちろん私の霊体は、何千年、何万年、いや何百万年にもわたり常に同一であり続けましたが、生まれ変わることのできる総意識は変化しました。それはまさに絶えることのない進化によるものであり、当然のことです。こうして生まれ変わる度に新しい意識と、したがってまた新しい人格が生まれたのです。この人格はそれ以前の人格と共通するものは何も持つことができず、全く関係ありません。ですから、人間は特定の人格を持ち、2つの異なる人生において同一の人物であることができると考えるのは間違いです。同一であり続けるのは唯一霊体のみなのです。意識の人格は進化によって変化しますが、それは以前の人生の人格に対する記憶が場合によってはよみがえることを排除するものではありません。

あなたは地球外飛行物体、その飛行術および着陸跡などを撮影した最上の写真やビデオを非常にたくさん持っており、その規模は地球上では他に例がありません。どうして片腕だけでこれほど撮影することができたのですか。

これはひとえにプレアデス／プレヤール人のおかげです。というのは彼らはこれらすべての資料を手助する手助けをしてくれたからです。つまり彼らはその都度私にいろいろな場所に行くように命じ、そこで私が撮影するために、とりわけ私だけのために、デモンストレーション飛行をやって見せてくれたのです。しかも私がカメラやビデオで好きなように撮影できるように計らい、ときにはビームシップのパイロットが正確な指示を出したこともあります。つまり私は特定のビデオや写真を取るよう指図されましたが、それを地球外の友人が助けてくれたのです。その一方で、私は許可なしに写真やビデオを撮ることはできませんでした。それは許されていなかったのです。それでも撮ろうとしたなら、フィルムが破壊されたに違いありません。

なぜあなたは地球外知的生命から、彼らのビームシップや飛行術のビデオや写真を撮るよう依頼されたのですか。

その理由は、地球人が一般にUFOと呼んでいる地球外飛行装置を、私が極めて鮮明な世界最高のビデオや写真に収めることになっているからです。これらの資料は、世界中で行われているUFO論争を巻き起こして、地球人をついに地球外知的生命の事柄で眠りから揺り起こす目的に用いられました。その論理的な帰結として官庁や軍隊も、自分たちが秘密にしているUFOに関する認識や研究を公にし、市民に開示せざるを得なくなるでしょう。これまで幾つかの国ではUFOが墜落してUFOと乗組員が確保された事実を否認してきましたが、これも真実が明らかにされるでしょう。プレアデス/プレヤール人はこの論争に自信を持っていましたが、それが実際に行われてその目的を達成することができたのは、私が撮影したビデオや写真を世界中に広めたからで、その結果、おのずと私の資料や発言や会見記録をめぐる支持者と反対者が世界中で衝突するということが起こり得たのです。事実そのようになりましたが、反対者は、私の話やコンタクトを信じる人がますます増えること、しかも私に詐欺師やペテン師の刻印を押そうとすればするほど増えていくのを妨げることはできませんでした。プレアデス/プレヤール人は、私を罵り、誹謗する者が増えれば増えるほど、ますます多くの人々が私の話が真実であることを認識するだろうと予告していましたが、まさにそのとおりの結果となったのです。

あなたの証拠資料にはほかにどんなものが含まれていますか。

私はプレアデス/プレヤール人からあらゆる製造段階から採取した極めて多様な金属試料をもらいました。それらの試料をアメリカで金属学者が調べた結果、低温の製造工程で造られた金属であると推測されるが、そのような製法は地球上ではまだ不可能であり、それができるのはおそらく約150年後であろう、ということが確認されたのです。その後、私

は様々な結晶やプラスチック、そして銅、ニッケルおよび銀をベースとした合金、さらに我々の姉妹宇宙であるDAL宇宙から持ってきた純銀も受け取りました。

別の証拠資料にビームシップのうなり音を録音したのがあります。その音は、科学実験室で1ダースものシンセサイザーを使っても模倣することができませんでした。さらに、レーザーガンの写真を撮ることも許されたばかりか、実際にそれを使って枯れかかったリンゴの木に穴を開けました。すると、不思議なことにリンゴの木は突然再び花を咲かせ始め、それ以来毎年実をつけています。そんなことはそれ以前にはありませんでした。

いろいろな証人の証言も忘れてはなりません。彼らはしばしばコンタクトの際に会見場所の近くまで一緒に来ることが許され、ビームシップのさまざまなデモンストレーションも一緒に体験し、さらには自分でもビデオや写真を撮ることができ、離れたところからですが肉眼で見ることができたのです。

それから地球外知的生命が語った、地球上の出来事についての非常にたくさんの予告も証拠になるでしょう。それらは政治や軍事や人間に関するものですが、自然災害なども驚くほどの正確さと極めて詳細なデータとともに予告されました。それらはすべて書き留め、世界中に配布されました。

そうしたすべての証拠にもかかわらず、あなたがビームシップの代わりに模型を撮影しただけなどと非難する人がいます。二重露出などの操作で偽造したという人もいます。そうした主張に対して何か言うことは。

これほど笑止千万なことはありません。ビームシップや、さらには地球外知的生命それ自体を見たり、写真に撮ったりした証人はたくさんいるのですから。彼らは一緒に会見場所に行ったとき、私が決して模型を造ったり、運んだりしなかったことも証言できます。私がそれらを密かに造るというようなことは、私の妻が絶対に許さなかったでしょうから、それもありません。ようするに私は自己弁護する必要は全くなく、誹謗する人間の嫉妬心と愚かさを

笑うだけです。それ以上言うことは何もありません。

続く

(出典：FIGUスイス ホームページ)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□講演会が開催されました□

2003年9月21日午後1時から、およそ4時間にわたってFIGUスイス基幹会員のシュテファン・リッカウアーとシモーネ・リッカウアー夫妻による講演会が開催されました。通訳は、これまでフィグ・ヤーパンの書籍類の翻訳を数多く手がけ、ビリーの信頼も篤い、シュトラッサー・節子氏が行いました。あいにくの台風でしたが、全国から50名を超える熱心な読者の方々にご参加いただきました。

講演は「FIGU / フィグについて UFOカルトか信頼できる精神科学か」という演目で行われました。講演内容はビリーの最近の写真やUFO写真等のスライドを交え、FIGUの理念に関する説明、センターの設立意義、メンバーの活動、出版活動、支援活動など、多岐にわたって行われました。また、新型肺炎SARSに関して地球外知的生命が明かした新しい情報、日本でのフィグ・ヤーパンの活動についても紹介がありました。日本語に翻訳されている書籍類は、英語に翻訳されたものより多いという報告もありました。この紙面上ですべてをご報告することができませんが、近日中に講演会の様子を収録したビデオを製作する予定です。当日お越しになれなかった方も、どうぞご期待ください。

さて、これまでなかった催しとして、今回の参加者の楽しみの一つに講演会が終わった後の懇親会がありました。講演会の興奮もそのままに、懇親会が始まるやいなや、リッカウアー夫妻の周りには人の輪ができました。打ち解けた雰囲気の中、軽い食事



と飲み物を交えながら、久しぶりに会う読者との会話が続きました。リッカウアー夫妻は、尽きることのない質問に精力的に答えてくださいました。普段は会うことのないスイス基幹会員との会話やふれあいは、ご参加いただいた方々の楽しみの一つとなり、また収穫になったことでしょう。

□公共図書館への書籍案内および寄贈活動□

『フィグ・ヤーパン通信』第14号でもお知らせいたしましたが、フィグ・ヤーパンでは、FIGU関連書籍の普及を目的に、全国の公共図書館を対象として、初めての読者の方々にも興味深くお読みいただける『宇宙の深遠よりープレアデスとのコンタクト(徳間書店刊)』を案内する活動を継続して行っています。一人でも多くの方にFIGU関連書籍に接する機会を持っていただけることを願い、今後も公共図書館へのFIGU書籍導入を進めてまいります。

この計画を継続して推進するためには、活動に賛同いただける読者の方々の温かいご支援が何にも勝る推進剤となります。公共図書館では、一般的に来館者に対して、購入を希望する書籍の申し込みを受け付けています。お近くの図書館に行かれた折に、『宇宙の深遠よりープレアデスとのコンタクト(徳間書店刊)』の書籍購入申し込みをして、図書館名をご報告いただければ幸いです。

□翻訳出版へのご支援をお願いいたします□

現在、『一握りの知識、感覚、知恵』、『コンタクト記録』に加え、『瞑想入門』の大作を三冊同時並行して翻訳中で、今後順次出版していく予定です。フィグ・ヤーパンの翻訳出版活動にもご理解、ご賛同いただけますよう、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



出版物のご案内

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)
全国の書店でもお求めいただけます。

■フィグ・ヤーパン通信

価格 各 300 円 (税込)

1 号 (送料別 45 グラム) 2 号 (送料別 225 グラム)
3 号 (送料別 55 グラム) 4 号 (送料別 70 グラム)
5 号 (送料別 65 グラム) 6 号 (送料別 40 グラム)
7 号 (送料別 60 グラム) 8 号 (送料別 70 グラム)
9 号 (送料別 55 グラム) 10 号 (送料別 85 グラム)
フィグ・ヤーパン通信は 11 号以降無料となりました。

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)
87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)
7 号 価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)
29 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)
30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)
38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き **新刊!!**

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■男と女に対する言葉

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■男と女の違い 男と女の結びつき

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■パートナーシップ

価格 200 円 (税込 送料別 35 グラム)

■昨日、今日、明日の心配に関する考察

価格 100 円 (税込 送料別 15 グラム)

■生と死は互いに切り離しがたく結びついている

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■あえて賢くあれ

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

■プレヤール人が地球人に望むこと

価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍代金に送料を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

150 グラムまで 180 円 1000 グラムまで 340 円
250 グラムまで 210 円 2000 グラムまで 450 円
500 グラムまで 290 円 3000 グラムまで 590 円

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 16 号 (無料)

発行日 2003 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail jp@figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製すること
は、著作権法上の例外を除き禁じられています。本
書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパ
ンにご連絡ください。

Copyright (c) 2003 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.